CREATIVE

Sound BLASTER OMNI SURROUND 5.1



User's Guide

Model No.: SB1560

はじめに

Sound Blaster® Omni Surround 5.1をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。SBX® Pro Studio™技術を搭載するこのUSBオーディオソリューションで、比類なきオーディオエクスペリエンスとエンターテイメントをお楽しみください。

パッケージチェックリスト

Sound Blaster Omni Surround 5.1パッケージには以下の付属物が同梱されています。

- Sound Blaster Omni Surround 5.1 USB デバイス
- 1.5mマイクロUSB 2.0ケーブル
- ステレオRCA対3.5mm (1/8インチ) プラグ
- リモコン(一部の製品にのみ同梱されています)

必要なシステム構成

Windows® OSの場合

- Intel Core™2 Duoプロセッサ 2.2 GHz、AMD Athlon 64x2 Dual Core、または同等のプロセッサ
- Microsoft® Windows 8 32ビットまたは64ビット、Windows 7 32ビットまたは64ビット、 Windows Vista® 32ビットまたは64ビット
- ソフトウェアインストール用にCD/DVDドライブ
- 1GB以上のシステムメモリー
- 600MB以上の空き容量を持つハードディスクドライブ
- 使用可能なUSB2.0ポート

Mac OSの場合

- Intel Core 2 Duoプロセッサ2.8 GHz
- Mac OS X 10.6以降
- 1GB以上のシステムメモリー
- 600MB以上の空き容量を持つハードディスクドライブ
- 使用可能なUSB2.0ポート

ユーザー登録の方法

製品のユーザー登録を行うことにより、製品や技術サポートなどのサービスなど様々な特典を受けることができます。製品登録は、ソフトウェアのインストール中、またはwww.creative.com/registerから行えます。なお、ハードウェア保証の保証規定は、ユーザー登録の有無に関わらず適用されます。

その他のヘルプ

Sound Blaster製品の最新情報については、http://jp.creative.comを参照してください。このサイトでは、購入方法、技術的なヘルプ情報、および最新のソフトウェアアップデートに関する情報も掲載しています。

Creative ソフトウェアオートアップデートを使用する

ウェブベースのCreativeソフトウェアオートアップデートシステムを使うと、Creative製品の更新されたデバイスドライバの検索、ダウンロード、そしてインストールといった一連の作業が簡略化されます。

インターネットを経由して、Creativeソフトウェアオートアップデートに接続すると、お使いのコンピュータのオペレーティングシステム(OS)、言語、およびお使いのCreative製品をオンラインで判別します。

分析が終了すると、お使いの製品に対応したソフトウェアおよびデバイスドライバの更新情報が表示されます。インストールするファイルを選択すると、ダウンロードとパソコンへのインストールがシームレスに行われます。Creativeソフトウェアオートアップデートで提供されるファイルは、ご使用のパソコンの環境に合わせてカスタマイズされているため、通常のアップデートファイルよりもサイズが小さく、ダウンロードに要する時間も短縮されます。

Creativeソフトウェアオートアップデートの詳細については、http://jp.creative.com/supportを参照してください。

メモ:

*Creative*ソフトウェアオートアップデートを初めて使用する場合には、システムの分析を行うのに必要なブラウザコンポーネントのダウンロードの許可を求めるメッセージが表示される場合があります。内容が*Creative Labs, Inc.*によって署名されたものであることを確認し、**［はい］**ボタンをクリックしてください。

*Creative*ソフトウェアオートアップデートをお使いになる前に、対象となる製品がコンピュータに接続され、正常に認識されていることを確認してください。

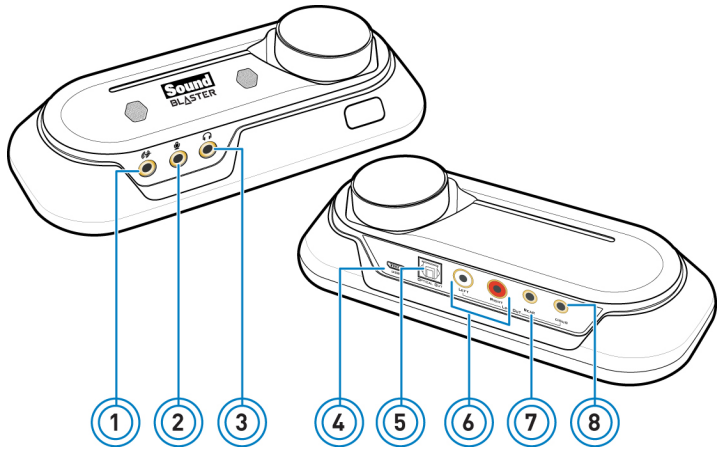
ハードウェアについて

Sound Blaster Omni Surround 5.1の取り付け方法については、クイックスタートガイドを参照してください。 製品の詳細については、該当するセクションを参照してください。

- Sound Blaster Omni Surround 5.1
- リモコン

Sound Blaster Omni Surround 5.1

Sound Blaster Omni Surround 5.1にはさまざまな機器を接続することができる、以下のような接続端子が用意されています。



	接続端子	説明
1	ライン入力端子	カセットやCDプレーヤー、デジタルオーディオプレーヤーなど外部ステレオソースのライン出力端子と接続します。
2	マイク入力端子	3.50mm(1/8インチ) モノラル端子のマイクを接続します。
3	ヘッドフォン出力端子	3.50mm(1/8インチ) ステレオ端子のステレオヘッドフォンを接続します。 ヘッドフォンを接続した場合、スピーカー出力はミュートされます。
4	USBポート	USBケーブルでコンピュータに接続します。
5	光デジタル出力端子	光デジタル入力を備えた録音・再生機器(MDレコーダー、-DATレコーダー、外部アンプなど) の光デジタル入力端子と接続します。
6	RCAフロント出力端子	アンプ内蔵ステレオ、マルチチャンネルスピーカーシステム、または外部アンプに接続します。
7	リア出力端子	アンプ内蔵マルチチャンネルスピーカーシステムのリアまたはサラウンドチャンネル入力、またはホームシアターレシーバーのマルチチャンネル入力に接続します。

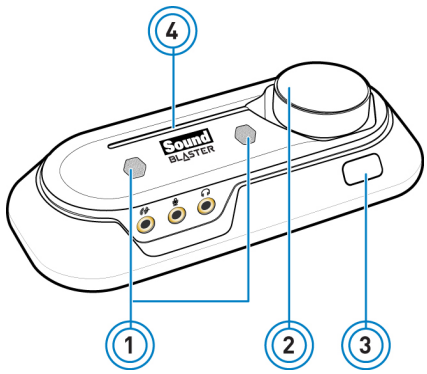
	接続端子	説明
8	センター/サブウーファー出力端子	アンプ内蔵5.1スピーカーシステムのセンター/サブウーファーチャンネル入力、またはホームシアターレシーバーのマルチチャンネル入力に接続します。

メモ:

マイク入力とライン入力が同時に接続されている場合、マイク入力が優先します。また外部マイクの接続時には内蔵マイクは無効となります。

表示インジケーターおよびコントロールダイヤルを使用する

Sound Blaster Omni Surround 5.1には、動作ステータスを調整してモニターするための以下のインジケーターおよびコントロールダイヤルが搭載されています。



	ボタン/スライダー	説明
1	内蔵アレイマイク	CrystalVoiceテクノロジーに対応した内蔵デュアルマイクロフォン。
2	ボリュームコントロールダイヤル	右回り(ボリュームアップ) または左回り(ボリュームダウン) に回して、ボリュームを調整します。 押すとミュートされます。
3	リモートコントローラ用赤外線受光部	リモコンからの赤外線信号を受信します。
4	電源LED	USB電源を検知すると、赤色に点灯します。 赤外線が動作している場合は断続的に点滅します。 オーディオがミュートされている場合は連続して点滅します。

ボリュームの調整

ボリュームコントロールダイヤルのほか、以下を使用することでボリュームの調整やミュートコントロールが可能です。

- リモコン
- Sound Blaster Omniコントロールパネル

メモ:

ソフトウェアアプリケーションでボリュームがミュートされている場合、ボリュームコントロールダイヤルを調節しても音声は出力されません。

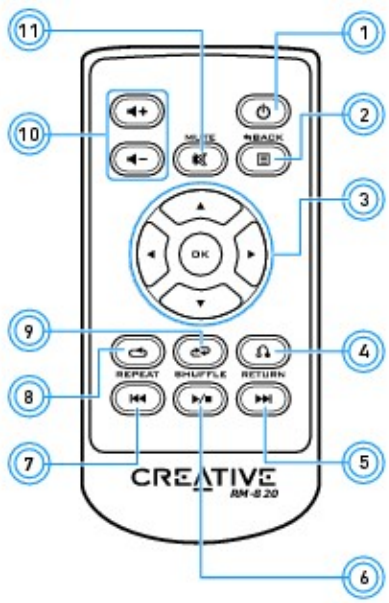
リモコン

Sound Blaster Omni Surround 5.1には、Creativeリモコン用の赤外線受信器が搭載されています。 リモコンを使用することで、ソファやベッドなどの快適な場所から、最大3メートルの範囲内でコンピュータを操作できます。

メモ:

*Creative*リモコンは、一部の製品にのみ同梱されています。

リモコンを使用する

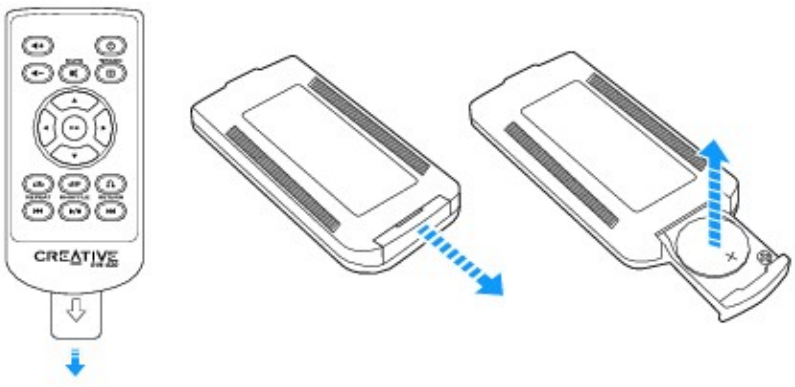


	ボタン	説明
1	［電源］ボタン	使用しません。
2	［メニュー］ボタン	使用しません。
3	［メニュー ナビゲーション］ボタン	メニューを上下にスクロールします。 ［OK］を押すと、選択したメニューの項目を実行します。

	ボタン	説明
4	［戻る］ボタン	前のサブメニューや機能に戻るときに使用します。
5	［次へ］ボタン	次のトラックを再生します。
6	［再生/一時停止］ボタン	再生、一時停止、または再開を行います。
7	［前へ］ボタン	前のトラックを再生します。
8	［リピート］ボタン	現在のトラックまたは再生リストを繰り返します。 PC上でのWindows Media Playerでのみ動作します。
9	［シャッフル］ボタン	現在の再生リストのトラックをランダムに再生します。 押すたびに、シャッフルの［オン］または［オフ］が切り替わります。 PC上でのWindows Media Playerでのみ動作します。
10	［ボリューム］ボタン	［+］ボタン(ボリュームアップ) と［-］ボタン(ボリュームダウン) でオーディオ出力のマスターボリュームを調整します。
11	［ミュート］ボタン	オーディオ出力のミュート/ミュート解除を切り替えます。

バッテリーの交換

リモコンを使用する前に、絶縁シートを取り外してください。 バッテリーを交換する方法については、下図を参照してください。



ソフトウェアのインストールとアンインストール

Sound Blaster Omni Surround 5.1オーディオデバイスの機能を最大限に活用するには、デバイスドライバとアプリケーションをインストールする必要があります。また、デバイスドライバやアプリケーションの問題の解決、設定の変更、新しいバージョンへのアップグレードを行うために、デバイスに付属するデバイスドライバやアプリケーションの一部またはすべてを削除し、再インストールしなければならない場合もあるかもしれません。サポート対象のすべてのWindowsとMacオペレーティングシステムでの手順については、次のセクションを参照してください。

- デバイスドライバとアプリケーションのインストール
- デバイスドライバとアプリケーションのアンインストール

デバイスドライバとアプリケーションのインストール

次に進む前に、オーディオデバイスが接続されていることを確認してください。オーディオデバイスの取り付け方については、クイックスタートガイドを参照してください。

オーディオデバイスの接続が完了したら、コンピュータの電源を入れます。Windowsにより、オーディオデバイスが自動検出され、デバイスドライバが検索されます。

Windows Vista / Windows 7の場合

1. インストールCDをCD/DVDドライブに挿入します。
   インストーラーが自動的に起動します。自動的に起動しない場合は、以下の手順で起動してください。
   i. **［スタート］ > ［コンピュータ］** の順にクリックします。
   ii. インストールCDを挿入したCD/DVD ROMドライブのアイコンを右クリックします。表示されるメニューから、**［自動再生を開く］**をクリックします。
2. 画面の指示に従ってインストールを実行します。
3. メッセージが表示されたら、コンピュータを再起動します。

Windows 8の場合：

1. インストールCDをCDまたはDVDドライブに挿入します。
2. インストールCDが読み込まれると、その通知がディスプレイ右上に表示されます。その通知ををクリックし、**［setup.exeの実行］**を選択します。
   ドライブのアイコンが表示されない場合は、次の手順に従ってください。
   i. Windowsのスタート画面の背景部分(タイルがない箇所) で右クリックし、**［すべてのアプリ］**をクリックします。
   ii. **［コンピューター］**をクリックします。
   iii. インストールCDを挿入したCD/DVD ROMドライブのアイコンを右クリックします。表示されるメニューから、**［自動再生を開く］**をクリックします。
3. 画面の指示に従ってインストールを実行します。
4. メッセージが表示されたら、コンピュータを再起動します。

Mac OSの場合

1. ウェブブラウザを使用して、http://jp.creative.com/supportにアクセスし、Mac OS用のソフトウェアパッケージを指定します。
2. ソフトウェアパッケージをデスクトップなど分かりやすい場所にダウンロードします。

3. ダウンロードしたファイルをダブルクリックして解凍します。
4. 解凍したDMGファイルをダブルクリックします。
5. **［インストール］**アイコンをダブルクリックして、続けて画面に表示される手順に従い、インストールを完了します。

デバイスドライバとアプリケーションのアンインストール

アップグレード時などアンインストールが必要になった場合、次の手順を実行してください。

作業を始める前に、実行中のオーディオアプリケーションをすべて終了してください。アンインストール作業中に実行しているアプリケーションは削除することができません。

Windows OSの場合

1. **［コントロールパネル］**で**［プログラムのアンインストール］**をクリックします。
2. 使用しているオーディオデバイスを選択します。
3. **［アンインストール］**ボタンまたはオプションをクリックします。
   ［ユーザーアカウント管理］ダイアログボックスが表示された場合は、**［続行］**ボタンをクリックします。
4. **［はい］**ボタンをクリックします。
5. メッセージが表示されたら、コンピュータを再起動します。

Mac OSの場合

1. **［アプリケーション］** > **［Creative］** > **［Creative Uninstaller］**の順にクリックします。
2. アンインストールする［Creative］製品を選択します。
3. **［アンインストール］**ボタンをクリックします。
4. 画面の手順に従います。

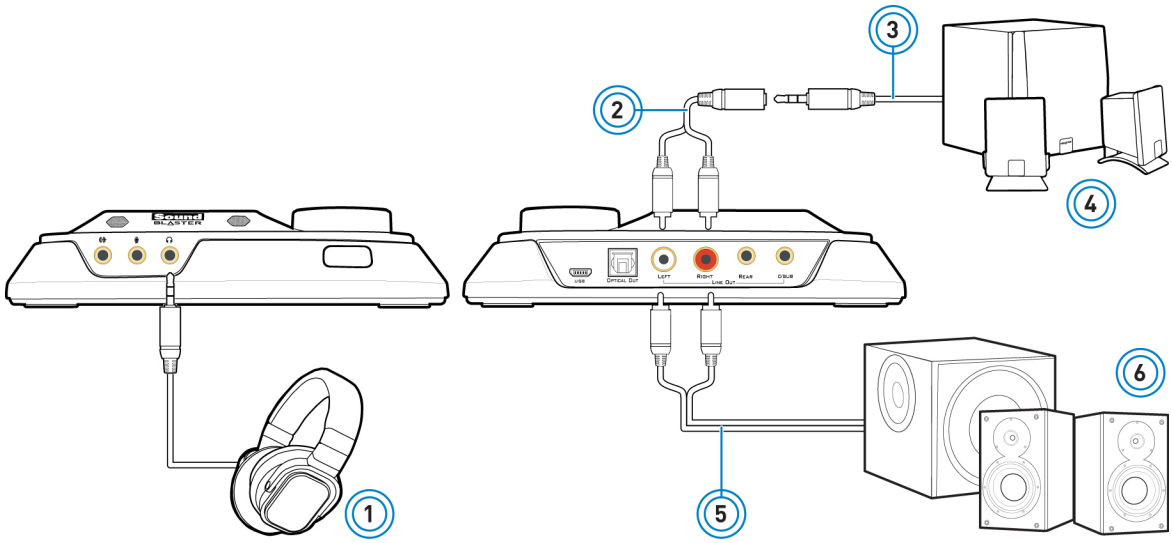
Sound Blaster Omni Surround 5.1を使用する

Sound Blaster Omni Surround 5.1は、多数の周辺機器と接続して様々な用途に使うことができます。周辺機器と接続する場合、以下の関連項目を参照して下さい。

- 音楽を再生する
- 音楽を録音する
- 音楽の作曲/編曲をする
- DVDを鑑賞する

音楽を再生する

ステレオヘッドフォンをSound Blaster Omni Surround 5.1前面のヘッドフォン端子に接続できます。また、以下の図はアナログステレオまたは2.1チャンネルスピーカーの接続した場合になります。アナログ5.1チャンネルスピーカーの場合は、**「スピーカーの接続」**を参照してください。



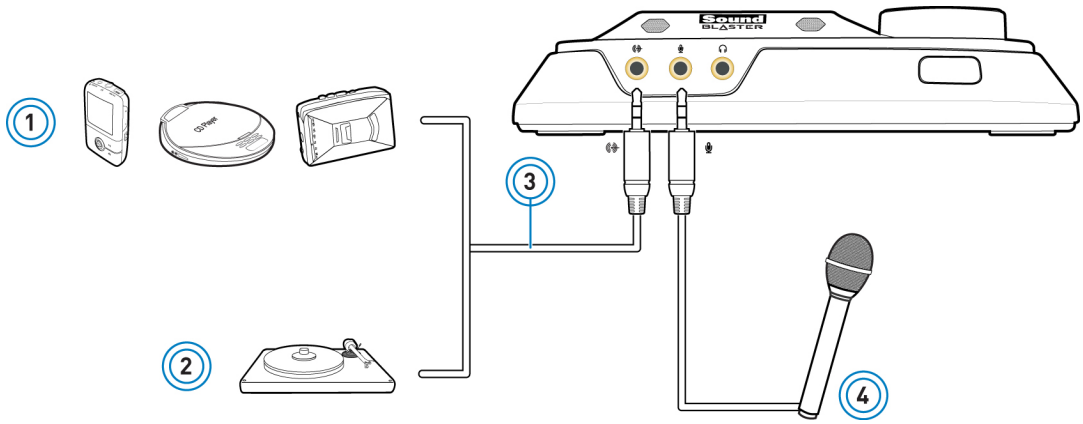
	コンポーネント
1	ヘッドフォン
2	RCA-3.5mmミニステレオ変換ケーブル
3	アナログスピーカーケーブル(別売り)
4	アナログステレオスピーカー
5	RCA-RCAステレオケーブル(別売り)
6	RCAオーディオ入力端子を搭載したアナログステレオスピーカー

メモ:

ヘッドホンをヘッドホン出力端子に接続することで、内部でヘッドホン出力用に信号が切り替わります。この際に予想外の大音量が生じる場合がありますので、ヘッドホン接続時にはヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続してから、ヘッドホンを装着するようにしてください。

音楽を録音する

デジタルオーディオプレーヤーやCDプレーヤーなどの外部音源から音声を録音するには、これらの音源をSound Blaster Omni Surround 5.1のライン入力端子に接続します。もしくはマイク入力端子にマイクロフォンを接続します。

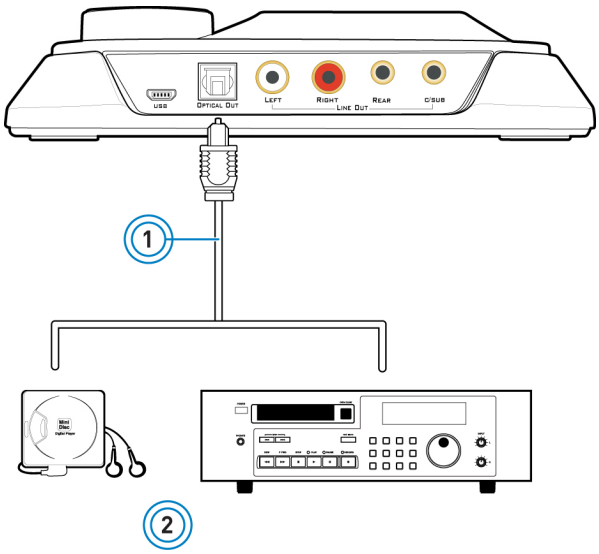


	コンポーネント
1	デジタルオーディオプレーヤー、CDプレーヤー、カセットプレーヤーなどの外部再生機器
2	ターンテーブル(ラインレベルを出力するもの)
3	アナログオーディオケーブル(別売り)
4	マイクロフォン

メモ:

ライン入力端子、マイク入力端子に接続された音源の音声、または、内蔵アレイマイクからの音声を聴くには、**「*Creative*ソフトウェアスイートの使用 - ミキサー設定」**を参照してください。

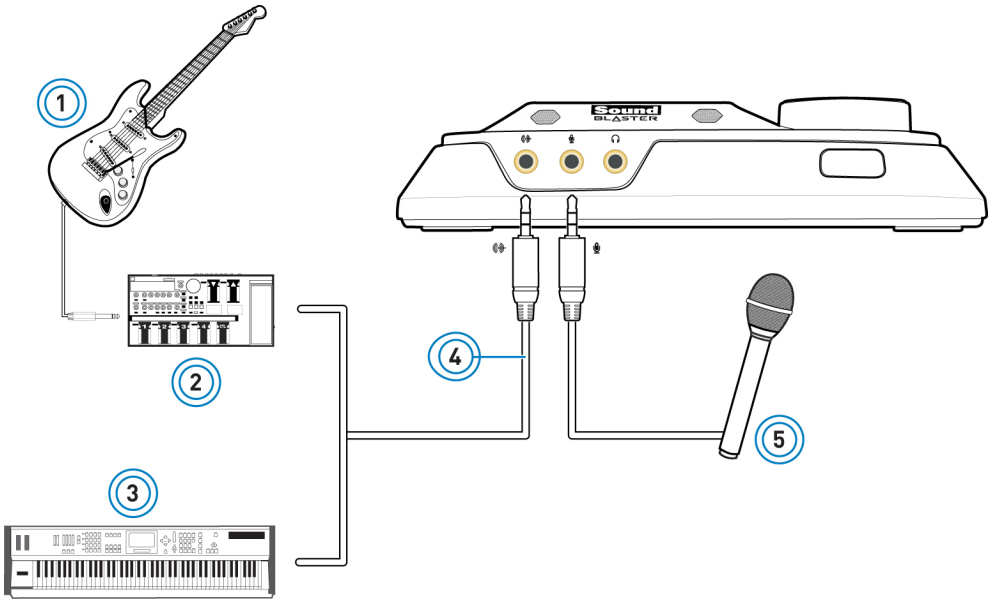
MDまたはDATなどの光デジタル入力端子を搭載した外部録音機器で録音する場合、録音機器を光デジタル出力端子に接続します。



	コンポーネント
1	市販の光デジタルケーブル
2	MDレコーダー、DATレコーダーなどの外部録音機器

音楽の作曲/編曲をする

これらのインターフェースにエレキギター、シンセサイザー、マイク等のラインレベルのオーディオを入力し、録音を行ったり、ミキシングやマスタリングを行うことができます。また、エレキギター用のプリアンプ／エフェクターをライン入力/マイク入力端子に接続することもできます。



	コンポーネント
1	エレキギター
2	プリアンプ／エフェクター
3	シンセサイザ
4	アナログオーディオケーブル(別売り)
5	マイクロフォン

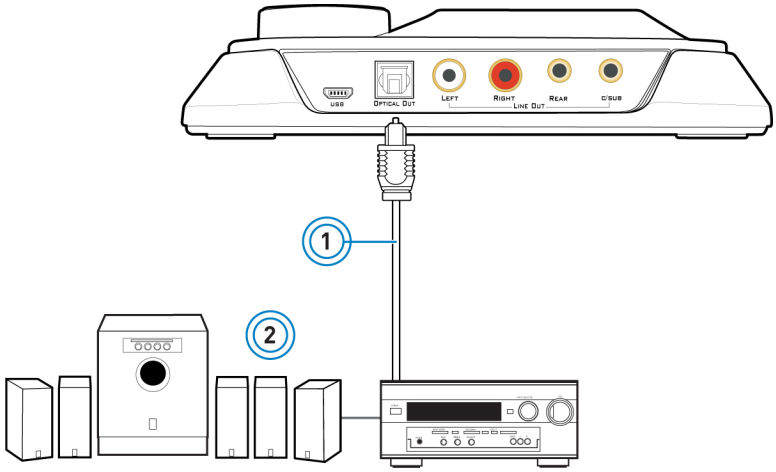
メモ:

ライン入力端子、マイク入力端子に接続された音源の音声、または、内蔵アレイマイクからの音声を聴くには、**「*Creative*ソフトウェアスイートの使用 - ミキサー設定」**を参照してください。

DVDを鑑賞する

Sound Blaster Omni Surround 5.1を使用することで、PCホームエンターテインメントシステムを構築することができます。コンピュータ上でDVDを再生し、外部デコーダーやAVアンプなどでSound Blaster Omni Surround 5.1からのDolby Digital信号およびDTS®信号をデコードします。

外部デコーダーまたはAVアンプの光デジタル入力とSound Blaster Omni Surround 5.1の光デジタル出力端子とを接続します。外部機器の設定に関しては、各機器のマニュアル等を参照してください。



	コンポーネント
1	市販の光デジタルケーブル
2	外部デコーダー、AVアンプ、またはホームシアターレシーバー等

ソフトウェアDVDプレーヤーを使用したデコード

ソフトウェアDVDプレーヤーを使用して、DVDのDolby DigitalやDTSといったエンコード信号をデコードすることで、Sound Blaster Omni Surround 5.1からマルチチャンネルオーディオをスピーカーに出力することができます。これにはCyberlink® PowerDVD®などのソフトウェアDVDプレーヤーをインストールする必要があります。

Dolby Digital Live

Dolby Digital® Liveは、Dolby Laboratoriesのリアルタイムエンコード技術です。あらゆるオーディオ信号をDolby Digitalビットストリームに変換し、ホームシアターやデジタルスピーカーシステムでの転送や再生ができるようにします。

Dolby Digital Liveを利用すれば、よりエキサイティングでリアルなゲームプレイが可能です。画面上のアクションに従ったオーディオキューやエフェクトが再現され、臨場感あふれる5.1チャンネルサラウンドサウンドでプレーヤーはゲームの世界に引き込まれます。

Dolby Digital Liveは、パソコンとホームシアターシステムを接続するデジタルケーブルが1本あれば利用できます。セットアップは簡単で、複雑なケーブル類に煩わされることもありません。

オーディオデバイスにA/Vレシーバーまたはデジタルスピーカーシステムを接続する方法については、次のセクションを参照してください。

- デジタルスピーカーシステムの接続
- ホームシアターシステムの接続

Dolby Digital Liveのt詳細については、www.dolby.comを参照してください。

スピーカーの接続

ご利用の機器によっては、ここで紹介されているスピーカーシステムと構成や接続端子の種類等が異なる場合があります。 お使いのスピーカーシステムのマニュアル等を参照してください。 なお、ここに記載されているケーブル類は別売りです。

Sound Blaster Omni Surround 5.1に各種スピーカーシステムを接続する方法については、次のセクションを参照してください。

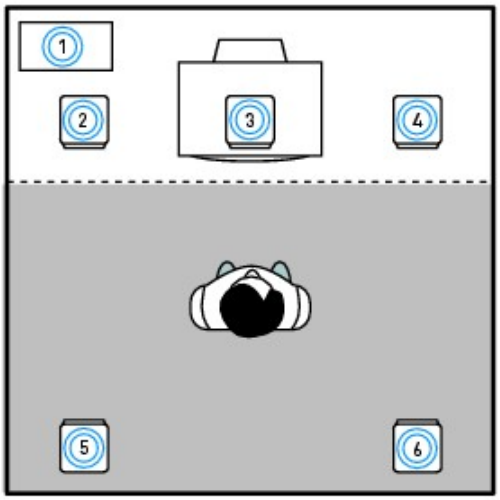
- アナログスピーカーシステムの接続
- デジタルスピーカーシステムの接続
- ホームシアターシステムの接続

サポートされているCreativeスピーカーシステムの一覧またはスピーカーの接続方法に関する情報については、http://jp.creative.comを参照してください。

スピーカーの設置場所

スピーカーを正しく設置することにより、最適なサラウンド効果を得ることができます。逆に性能の良いスピーカーシステムをお持ちでも、その設置を誤ると本来の性能を発揮することができません。 スピーカーの設置方法の詳細については、お持ちのスピーカーシステムのマニュアル等を参照してください。

5.1チャンネルスピーカーシステムの場合：



	スピーカー構成
1	サブウーファー
2	フロントレフト
3	フロントセンター
4	フロントライト
5	リアレフト
6	リアライト

アナログスピーカーシステムの接続

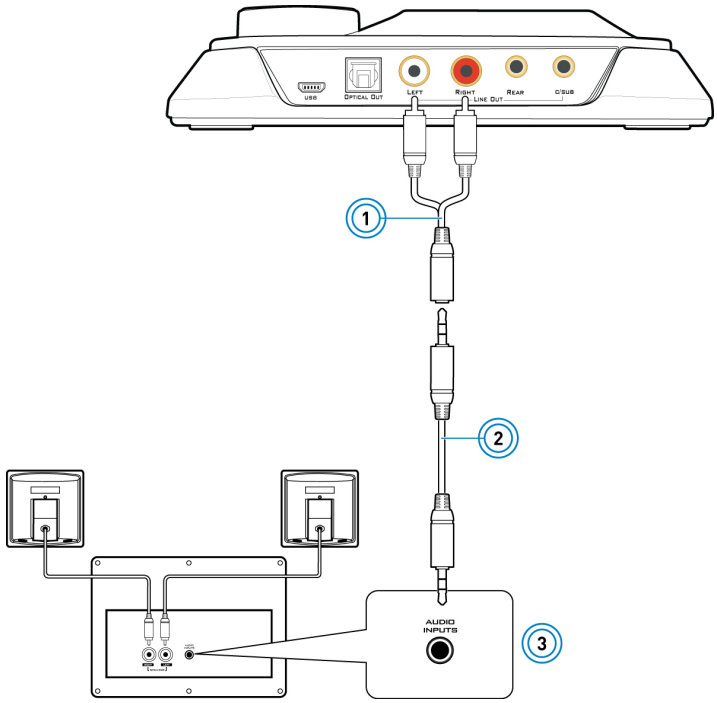
Sound Blaster Omni Surround 5.1では最大5.1チャンネルまでのスピーカーシステムを接続できます。 ご利用のスピーカーシステムに最適な入出力およびケーブルに関する詳細については、以下のスピーカーの構成を参照してください。

- 2.1チャンネルアナログスピーカーシステムの場合
- 5.1チャンネルアナログスピーカーシステムの場合

メモ:

サポートされている*Creative*スピーカーシステムについては、*http://jp.creative.com*を参照してください。

2.1チャンネルアナログスピーカーシステムの場合

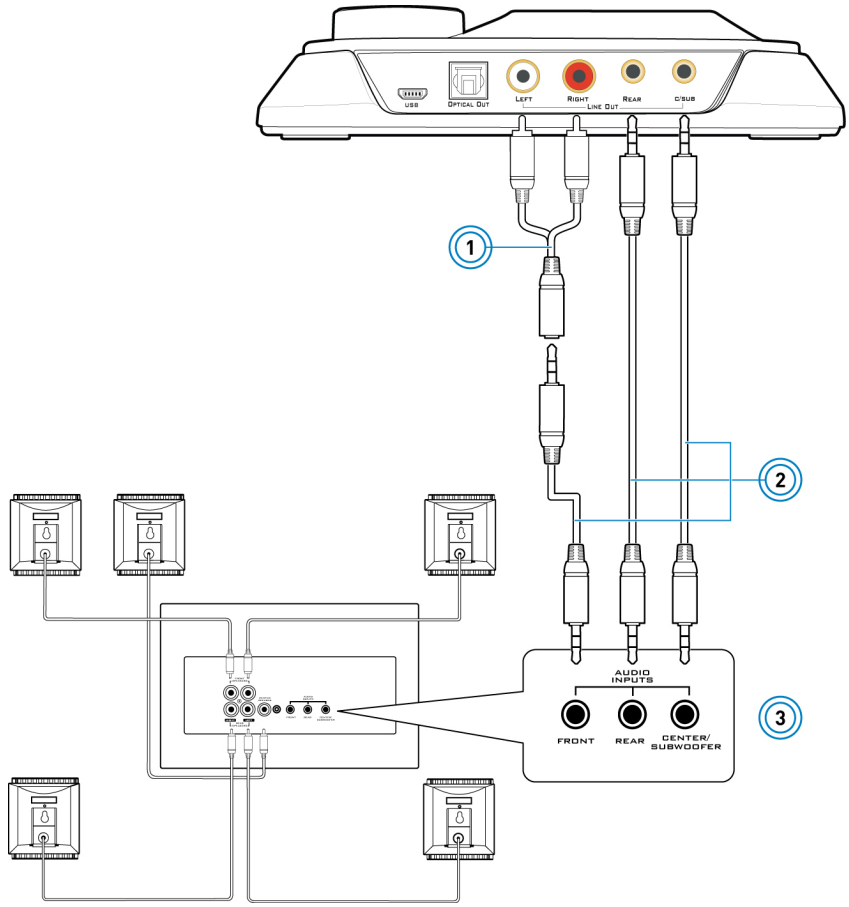


	接続端子/ケーブル
1	RCA-3.5mmミニステレオ変換ケーブル
2	アナログスピーカーケーブル(別売り、下記の注意書きをご覧ください。)
3	2.1チャンネルアナログスピーカーシステムのオーディオ入力端子

メモ:

スピーカーに付属のスピーカーケーブルを使用できます。

5.1チャンネルアナログスピーカーシステムの場合



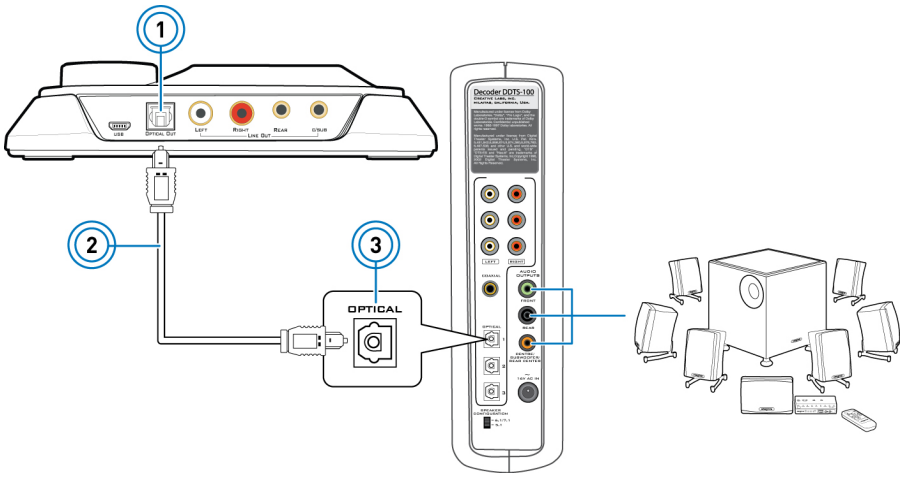
	接続端子/ケーブル
1	>RCA-3.5mmミニステレオ変換ケーブル
2	アナログスピーカーケーブル(別売り、下記の注意書きをご覧ください。)
3	アナログ5.1チャンネルスピーカーのフロント、レア、センター/サブウーファーの各オーディオ入力端子

メモ:

スピーカーに付属のスピーカーケーブルを使用できます。

デジタルスピーカーシステムの接続

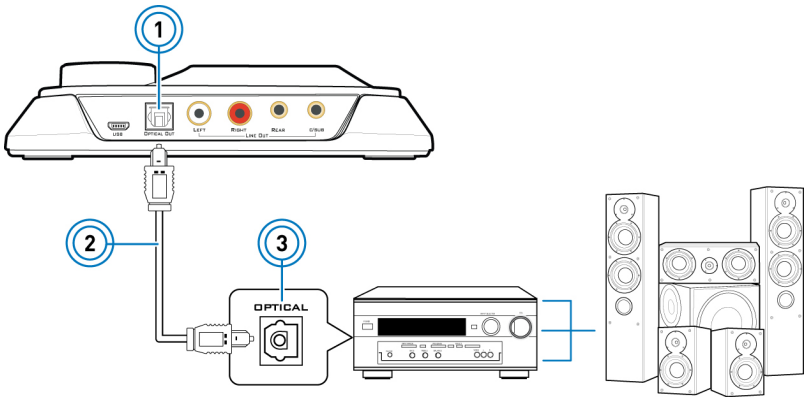
Sound Blaster Omni Surround 5.1には、デジタルスピーカーシステムを接続できる光デジタル出力端子が搭載されています。 デジタルスピーカーシステムの接続の詳細については、お持ちのスピーカーシステムのマニュアル等を参照してください。



	接続端子/ケーブル
1	光デジタル出力端子
2	市販の光デジタルケーブル
3	デジタルスピーカーシステムの光デジタル入力端子

ホームシアターシステムの接続

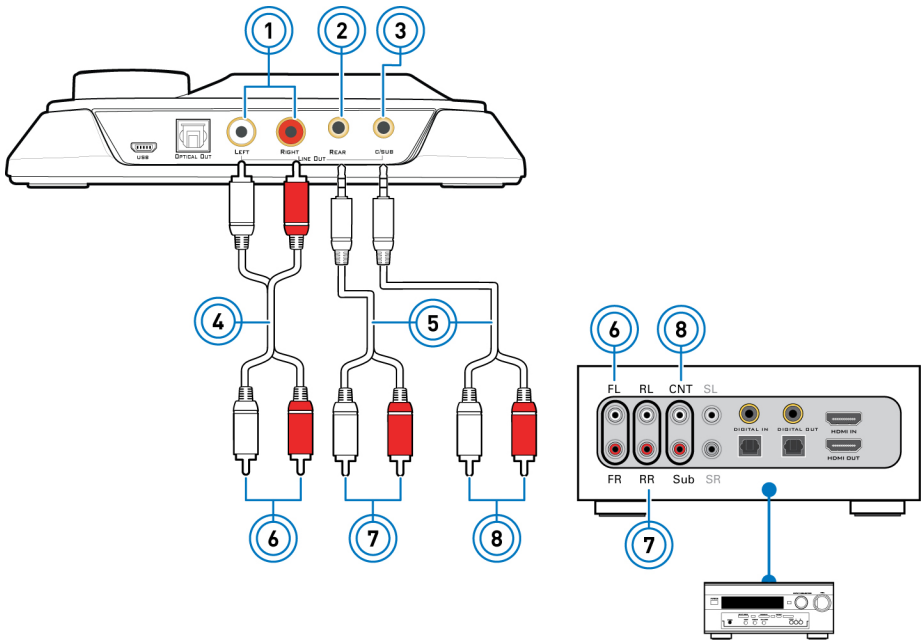
Sound Blaster Omni Surround 5.1には、ホームシアターシステムを接続できる光デジタル出力端子が搭載されています。 A/Vレシーバーのスピーカー接続の詳細については、お使いのA/Vレシーバーのマニュアルを参照してください。



	接続端子/ケーブル
1	光デジタル出力端子
2	市販の光デジタルケーブル
3	A/Vレシーバーの光デジタル入力端子

A/Vレシーバーのライン入力端子に接続する

お使いのA/Vレシーバーがマルチチャンネルライン入力端子を搭載している場合は、光デジタル出力端子の代わりに、Sound Blaster Omni Surround 5.1のライン出力端子と直接接続できます(下図参照) 。



	接続端子/ケーブル
1	RCAフロント出力端子
2	リア出力端子
3	センター/サブウーファー出力端子
4	RCA-RCAステレオケーブル(別売り)
5	RCA-3.5mmミニステレオ変換ケーブル(別売り)
6	A/Vレシーバーの左右フロント入力端子
7	A/Vレシーバーの左右リア入力端子
8	A/Vレシーバーのセンターおよびサブウーファー入力端子

Creativeソフトウェアスイート

次のソフトウェアは、基本から応用まで、オーディオデバイスのさまざまな機能を利用できるように設計されています。オーディオデバイスの豊富な機能を完全に活用できるようにするために、その機能をよく理解しておくことをお薦めします。

ソフトウェアアプリケーション

Windowsの場合

- Sound Blaster Omniコントロールパネル
- Creativeシステムインフォメーション

Mac OSの場合

- Sound Blaster Omniコントロールパネル

ボーナスパック(Windowsのみ)

この他にも、お使いのオーディオデバイスに対応するCreative製アプリケーションが用意されている場合があります。http://jp.creative.com/supportで該当する製品を参照することで、これらのアプリケーションの確認およびダウンロードができます。

- Creative WaveStudio
- Creativeメディアツールボックス(トライアル版)

Sound Blaster Omniコントロールパネル



プロファイルの管理



プロファイル ボタンをクリックして［プロファイル］パネルを表示します。

をクリックしてリストからプロファイルを1つ選択し、有効にします。

保存 をクリックすることで、現在の全設定をプロファイルとして保存できます。この際、プロファイル名を新たにつけることで新規作成となります。また現在選択されているプロファイルを削除するには 削除 をクリックします。

プロファイルの共有

ご自分の設定をエクスポートすることで他のユーザーとの共有ができ、また他のプレーヤーのカスタム設定をインポートすることができます。

アバターのカスタマイズ

各プロファイルのアバターをカスタマイズできます。現在使用中のアバターをダブルクリックし、選択ウィンドウを開きます。リストからアバターを選択するか、または 参照 をクリックし、アバターとして使用するイメージファイルを選択します。



マスターボリューム設定の調整

マスターボリュームスライダをドラッグして音量レベルを調整します。スピーカーアイコンをクリックしてボリュームのミュート/ミュート解除を切り替えます。



ソフトウェア設定の構成

設定ページにアクセスするには、それぞれの機能のタブをクリックします。各機能に関する詳細は、本マニュアルのそれぞれのセクションに記載されています。



全般設定の構成

 をクリックし、リストから表示される以下のオプションを選択します。

- Windowsの起動時にSound Blaster Omniコントロールパネルを起動するかどうか。
- デフォルトに戻す：デフォルト設定の復元。
- オーディオデバイスセレクション：再生デバイスの選択。
- ソフトウェアの言語設定：お使いのシステムで使用できるソフトウェア言語の選択。
- Sound Blaster Omniコントロールパネルバージョン情報：ソフトウェアの概要。



SBX Pro Studioの設定



1. SBX Pro Studio エンハンスメント
   それぞれのエンハンスメントを選択して、有効または無効を設定します。カーソルをエンハンスメントの上に移動すると、それぞれのエンハンスメントの説明が表示されます。
2. エンハンスメントレベル スライダ
   適用するエンハンスメントの程度を調節します
3. オーディオテスト
   デモビデオを再生/一時停止、または停止します。

より優れたリスニング体験を楽しむ

各エンハンスメントのスライダを右(増加) 、左(減少) にドラッグすることで、それぞれに適用するレベルを調整します。オーディオエンハンストメントの効果をテストするには、 をクリックしてデモビデオを視聴します。

- **SBX Pro Studio Surround** : バーチャルサラウンドサウンドチャネルを作り出すことによって、音の自然な深みと広がりを向上させて臨場感のある再生を実現します。オーディオデバイスから繰り出される音の自然な深みと広がり感、そして驚異的な3Dサラウンドエフェクトを体験してください。ストレオスピーカーやヘッドフォンであっても、素晴らしいリアルなオーディオ体験をお楽しみください。
- **SBX Pro Studio Crystalizer** : 音楽を圧縮した際に失われる自然なダイナミックレンジを適切に最適化。これによりアーティストが意図したサウンド表現を最高レベルの品質でリスニングすることが可能です。映画やゲームであれば、そのリアル感がさらに向上します。
- **SBX Pro Studio Bass** : 欠如した低周波トーンを加えることにより、さらなるインパクトを与え、エンターテインメント体験を向上します。
- **SBX Pro Studio Smart Volume** : 音楽や映画、ゲームにおいて急激な音量レベルの変化を測定し、自動的に最適なレベルへ調整します。
- **SBX Pro Studio Dialog Plus** : 映画やゲームの音声パートの出力を向上して会話をクリアに表現します。BGMや音響効果があっても会話をクリアに聴き取ることが可能です。

CrystalVoice設定



1. CrystalVoiceエンハンスメント
   使用可能なエンハンスメントのオン/オフを切り替えるために選択します。
2. エンハンスメントレベル スライダ
   適用するエンハンスメントの程度を調節します
3. オーディオテストボタン
   

   をクリックしてマイクに向かって話すことで、CrystalVoiceが適用された自分の声を聴くことができます。

CrystalVoiceでボイスチャットをさらに楽し

各エンハンスメントのスライダを左(増加) 、右(減少) にドラッグすることで、それぞれに適用するレベルを調整します。オーディオエンハンストメントの効果をテストするには、

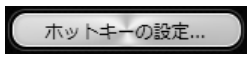
をクリックしてマイクに向かって話します。

- **CrystalVoice FX**：面白いアクセントをつけたり、男声から女声やモンスターボイス、ロボットボイスなど完全に別人になったりと、様々な効果で話し手の音声を別のキャラクターへとボイスチェンジが可能です。
- **CrystalVoice Smart Volume**：ボイス音量を自動的にノーマライズすることで、ある一定の距離であれば、マイクからの距離を気にすることなく会話を行うことができます。
- **CrystalVoice Noise Reduction**：マイクから混入するバックグラウンドノイズを継続的かつ効果的に低減します。
- **CrystalVoice Focus**：内蔵アレイマイク正面の集中的なボイスキャプチャー、またはより広範囲からの集音を調節することができます。

Scout Mode

スカウトモード(Scout Mode) は「足音」など、ゲーム内の環境音をハイライトすることでゲーム内のかすかな動きをサウンドで感じ取ることが可能です。この独自の機能によりゲームの敵キャラクターがあなたを見つける前に、その存在を聞き取ることができます。



1. スカウトモード
   スカウトモードのオン/オフを切り替えます。
   スカウトモードのオン/オフのホットキーを設定する場合は、

をクリックします。

メモ:

*Scout Mode*のホットキー登録はアルファベットキーの単独登録は行えません。登録の際は必ず*Shift / Ctrl / Alt*などのキーに加えて、アルファベットキーを同時に押して登録してください。

スピーカー/ヘッドフォンの設定



1. スピーカー/ヘッドフォンの構成
   現在のスピーカーまたはヘッドフォンの実際の構成を選択します。
2. オーディオ再生のテスト
   

をクリックしてお使いのスピーカーまたはヘッドフォンからサンプルオーディオクリップが再生されることを確認します。

シネマティック設定



1. エンコーダーのオフ
   エンコーディングをオフにするには、**［エンコーダーなし］**を選択します。
2. その他のエンコーダー設定
   エンコーダーをオンにするには**［Dolby Digital Live］**を選択します。

ミキサーの設定



1. ボリューム スライダ
   さまざまな入力/出力音声にあわせて再生および録音時のボリュームを調整します。
2. ミキサーの設定
    アイコンをクリックすると、入力/出力音声をミュート/ミュート解除できます。 アイコンをクリックすると、入力/出力音声の設定を調整できます。
3. ライン入力端子、マイク入力端子に接続された音源からの音声、または内蔵アレイマイクの音声を聴くには次の手順に従ってください。

   Windowsシステムの場合：
   Sound Blaster Omni コントロールパネルの**［ミキサー］**ページに移動し、**［プレイバック］**オプションで、**［ライン入力/マイク入力/アレイマイク］**のミュートを解除します。
   注意： 内蔵アレイマイクを使用する場合は、外部マイクが接続されていないことを確認してください。

   Mac システムの場合：
   1) **［システム環境設定］**を開き、**［サウンド］**をクリックします。
   2) **［入力］**タブをクリックして、**［ライン入力］**または**［マイクイン/マイクアレイ］**をデフォルトの録音デバイスとして選択します。
   3) Sound Blaster Omniコントロールパネルの**［ミキサー］**ページに移動し、**［REC］**および**［プレイバック］**オプションの両方で、**［ライン入力/マイク入力/アレイマイク］**のミュートを解除します。
   注意：
   - 音源の再生する場合は、*Sound Blaster Omni*コントロールパネルが実行中であることを確認してください。
   - 内蔵アレイマイクを使用する場合は、外部マイクが接続されていないことを確認してください。

イコライザー設定



1. EQ プリセット
   オーディオに適用するイコライザープリセットを選択します。
2. EQ スライダ
   イコライザー設定の各帯域を個別に調整します。

EQ設定のカスタマイズ

EQチェックボックスを選択することでイコライザーが有効になります。EQドロップダウンの矢印をクリックしてリストからプリセットを選択します。

プリセットを選択すると、EQスライダがそれぞれ設定された値になります。このスライダを希望のレベルまで上下にドラッグして、イコライザー設定を調整できます。

をクリックすることで、現在のイコライザー設定を保存できます。この際、プリセット名を新たにつけることで新規作成となります。また現在選択されてるEQプリセットを削除するには［削除］をクリックします。

メモ:

デフォルトの*EQ*プリセットリストは削除または上書きできません。

製品仕様

HDオーディオ品質(Windows用)

- 最大解像度96kHzの高リニアリティ低歪み24ビットコンバータを使用した、100dBを超える高いSN比(SNR) 。
- オーディオモニタリング無効の5.1モードでサンプリングレート最大96kHzでの24ビット再生中に、デジタルソースを24ビットデジタル/アナログ変換。
- オーディオモニタリング無効のモードで、サンプリングレート最大96kHzでの24ビット録音中に、アナログソースを24ビットデジタル/アナログ変換。

接続性

入力系統

- モノラルアナログマイク入力用3.5 mm(1/8インチ) 端子 X 1
- ステレオラインレベルアナログ入力用3.5 mm(1/8インチ) 端子 X 1

出力系統

- ステレオアナログヘッドフォン出力用3.5 mm(1/8インチ) 端子 X 1
- 光デジタル出力(角型) 1系統
- ステレオラインレベルアナログ出力用RCA端子 1系統
- リア出力3.5mm(1/8インチ) 端子 X 1
- センター/サブウーファー出力3.5mm(1/8インチ) 端子 X 1

インターフェース

- マイクロUSBポート X 1
- リモコン対応赤外線レシーバー(一部の製品にのみ同梱されています) X 1

その他

- ボリュームコントロールノブ X 1
- USBリンクを示す赤LED X 1

トラブルシューティングとサポート

このセクションでは、インストールまたは通常の使用時に発生する可能性のある問題について、解決方法を示します。次の項目があります。

- 音楽再生時の問題
- 同時再生/録音の問題

音楽再生時の問題

ヘッドフォンから音が出ない。

以下の点を確認してください。

- ヘッドフォンが正しくヘッドフォン出力端子に接続されているかどうか。
- Sound Blaster Omniコントロールパネルの［スピーカー/ヘッドフォン］タブで、**［ヘッドフォン］** オプションを選択しているかどうか。

WAVファイル、MIDIファイル、またはAVIクリップなどのデジタルファイル再生時に、オーディオが出力されない。

以下の点を確認してください。

- スピーカーシステムのボリュームコントロールが適切な音量に設定されているかどうか。必要に応じて、Sound Blaster Omniコントロールパネルのミキサー設定の音量を調整してください。
- アンプ内蔵スピーカーまたはアンプ等がライン出力端子に正しく接続されているかどうか。
- Sound Blaster Omniコントロールパネルのスピーカーおよびヘッドフォンの設定が、お使いのスピーカー/ヘッドフォン構成と一致しているかどうか。

ライン入力またはマイク入力端子に接続されている音源、または内蔵アレイマイクからの音声が聞こえない。

次の手順を実行してください。

- Sound Blaster Omniコントロールパネルの**［ミキサー］**の選択で、**［プレイバック］**オプションから**［ライン入/マイク入力/アレイマイク］**のミュートを解除します。

ライン入力またはマイク入力端子に接続されている音源、または内蔵アレイマイクからの音声を録音できない。

次の手順を実行してください。

i. Windowsの**［コントロールパネル］** > **［サウンド］** > **［録音］**タブの順にクリックします。
ii. 規定の録音デバイスとして**［ライン入力/マイク入力/アレイマイク］** を選びます。
iii. Sound Blaster Omniコントロールパネルの**［ミキサー］**の選択で、**［REC］**オプションから**［ライン入力］**または**［マイク入力/アレイマイク］**のミュートを解除します。

同時再生/録音の問題

録音と再生を同時に行うとエラーが発生します。

これはUSB 1.1 接続を使用している場合にデータ転送制限によって発生する可能性があります。対応している最高ビットレートまたは最高周波数(24ビット、96kHz) では、コンテンツの再生または同時に録音および再生を行うことができない場合があります。CPU消費およびUSB帯域幅を低く抑える必要がある場合は、低いビット深度およびサンプリングレートを選択してください。パフォーマンスの問題が発生する場合、またはUSB帯域幅がなくなった場合は、低い設定値を選択してください。ただし、サンプリングレートとビット深度を低くすると、一般に音質は低下します。

USB 2.0接続を使用している場合は、この問題は発生しません。

その他のサポート

Sound Blaster Omni Surround 5.1またはその他のCreative製品でその他の問題や不明な点があった場合は、http://jp.creative.com/supportのナレッジベースにアクセスし、詳細情報をご覧ください。

ソフトウェア使用許諾および著作権

本書の内容は、予告なく変更されることがあり、Creative Technology Ltd.による責務を表すものではありません。この説明書に含まれる全ての部分は、複写および録音を含む電子的または機械的のいずれの方法を問わず、いかなる目的においても、Creative Technology Ltd.の書面による許可なく複製および伝送することはできません。

ソフトウェア使用許諾契約書は、インストールCDの専用フォルダに収められています。

Copyright © 2013 Creative Technology Ltd. All rights reserved. Creative、Creativeロゴ、Sound Blaster、Sound Blasterロゴ、SBX Pro Studio、SBXロゴ、およびCrystalVoiceはCreative Technology Ltd.の米国、またはその他の国々における商標、または登録商標です。IntelおよびPentiumはIntel Corporationの登録商標です。AMD、およびAMD AthlonはAdvanced Micro Devices, Inc.の商標です。Microsoft、Windows Vista、Windows、およびWindowsロゴはMicrosoft Corporationの商標または登録商標です。DolbyおよびダブルDシンボルは、Dolby Laboratories, Inc.の登録商標です。DTS、およびDTS-ES Extended Surroundは、Digital Theater Systems, Inc.の商標です。CyberLink、およびPowerDVDは、CyberLink Corp.の商標または登録商標です。その他の登録商標および商標はそれぞれの所有者に帰属します。仕様は事前の予告なく変更される場合があります。本製品の使用は、限定ハードウェア保証の対象となります。実際の商品および内容物は掲載写真と多少異なる場合があります。同梱のソフトウェアとソフトウェアを同梱しているハードウェアを別々に使用することはできません。ソフトウェアを使用する前に、同梱の使用許諾契約書に同意する必要があります。

第1.0版

2013年6月